

議 事 要 旨

会議の名称	令和4年度第1回大田区地域福祉計画推進会議
開催日時	令和4年7月29日（金）午前9時30分～11時30分
開催場所	大田区役所等（WEB会議）
欠席委員	横川委員、宮澤委員、三木委員
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会（事務局から注意事項等説明） 2 福祉部長あいさつ 3 委員自己紹介 4 会長・副会長選任 5 講義「ウィズ・アフターコロナ時代における地域福祉の諸議題」 （恩賜財団済生会 理事長 炭谷 茂） 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度の計画進捗状況について <ol style="list-style-type: none"> ア 大田区地域福祉計画（資料番号1-1） イ 大田区成年後見制度利用促進基本計画（資料番号1-2） ウ 大田区社会福祉協議会の取組について（資料番号1-3、補足資料） (2) 次期地域福祉計画策定について (3) 重層的支援体制整備移行準備事業の状況について <ol style="list-style-type: none"> ア 大田区における重層的支援体制整備移行準備事業の状況（資料番号3-1） イ モデル地区（大森地区）における重層的支援会議の実施状況 ウ 大田区ひきこもり支援室SAPOTA（サポタ）の開設について（資料番号3-2） (4) 意見交換 7 閉会
会 議 経 過	
1 開会	事務局から出席者等の紹介と配布資料の確認があった。
2 福祉部長あいさつ	福祉部長から冒頭のあいさつがあった。
3 委員自己紹介	各委員から自己紹介があった。
4 会長・副会長選任	中原委員が会長に炭谷委員を、副会長に吉田委員を推薦し、出席している委員が承認したため、会長と副会長が決定した。
5 講義「ウィズ・アフターコロナ時代における地域福祉の諸議題」 （恩賜財団済生会 理事長 炭谷 茂）	炭谷委員から講義があった。
6 議事	<ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度の計画進捗状況について <ol style="list-style-type: none"> ア 大田区地域福祉計画 事務局より資料説明が行われた。

○委員

地域力の基礎が大田区はしっかりしている。私たち大田区民活動団体連絡会も 10 年を超えて活動しており、60 団体がネットワークを組んでいる。NPO・区民活動フォーラムは、社会福祉協議会、区民活動団体、社会教育関係団体が協力して開催してきた。区民が自発的に活動している団体がこれほど多いことは誇らしい。特に 2011 年の東日本大震災の時には大田区が被災地支援を積極的に展開してきたこともあって、そこで防災団体も数多く生まれてきた。様々な活動団体があることを周知しながら活動自体を推進していきたい。

○委員

高齢者はコロナの影響を受けて外出自粛していた。しかし、今はウィズコロナということで、感染に注意しながらこれまで行ってきた活動を始めようとしているところである。あとは見守りキーホルダーの登録について、情報照会 202 件とあって、その内訳を示していただけないか。いずれにしても、ウィズコロナの中で活動していくことが重要と考えている。

イ 大田区成年後見制度利用促進基本計画
事務局より資料説明が行われた。

ウ 大田区社会福祉協議会の取組について

○委員

フードドライブ事業を活用した食料支援について、コロナ禍で食料困難に陥る世帯が生じたため、家庭や企業・団体から食料・食材を提供する取組を行った。こども食堂連絡会について、大田区ではこども食堂は今年度 2 か所増えて計 34 か所で展開している。こども食堂マップの作成や新規団体の立ち上げ相談を受け付けている。ほほえみごはん（子育て世帯への見守りと食の支援）について、生活に困っている家庭に食料の支援を行った。アウトリーチにより問題が見つかった場合には、地域福祉コーディネーターやボランティアにつなぎ解決に向けて取り組んでいる。地域福祉コーディネーター機能の体制強化について。活動事例の作成や実践報告会の開催を行った。災害ボランティアセンター機能の推進について、区と NPO 団体、社協とが手を結び団体を立ち上げて、防災訓練を行った。地域福祉コーディネーターについて、重層的支援体制になっても大きな力になりたいと考えている。昨年度、地域共生社会の実現に向けて、地域福祉コーディネーターの役割、実践事例などをまとめた活動報告書を作成した。ボランティアセンターガイドについて、保存版として作成した。多くの人に活動していただきたい思いを込めて、「ひとりでも始められる活動がしたい」「地域の方といっしょに活動がしたい」「絆サポーターとして活動をしたい」という 3 つのニーズに応じた活動事例を作成した。フードドライブについては、企業側からも食料・食材の寄付の相談を受けて、社協と連携し生活に困っている人に対して提供することができた。おおた成年後見センターの相談実績数をみると、相談延べ件数は増加傾向にある。中核機関の実践についても資料では説明があるが、時間の関係で割愛する。老いじたく相談の内容をみると「遺言・相続」「後見制度」などがみられる。「親なきあと講演会」なども開催している。大田いきいきしごとステーションの実績をみると、紹介件数も増加傾向にある。

○委員

大田区の社会福祉法人がネットワークを組み、様々な地域の課題解決に向けて取り組んでいる。4つのエリアに分かれて実行している。大田福祉ガレージ、仕事位置などもあるが、コロナ禍でできなかった部分もあったが、4つのエリアで重層的課題をどのように考えていくのか、というところも今後検討する予定である。また、子ども・若者の一人親の支援でレインボーという取組がある。子どもが様々な支援を受けるだけでなく、支援を支える担い手になる伝承の機会をつくろうと考えている。子どもが民生委員の活動を勉強したり、何か一つでも取組ができないかということを考える機会にしたい。レインボーの中で、子どもは親の影響を受けるため、昨年からはフードパントリーを始めた。社協、他の社会福祉法人など、様々な団体と連携して食材が月に 2 回ほど提供できる取組を行っている。登録世帯は 1000、今年のアンケートではコロナ禍で収入が減った、食材の数が相当減った状態で食べている、子どもが学校に行けない、母親がうつ状態になっている、といった結果がわかっている。児童福祉法が改正され

ており、要支援状態の子どもが地域にたくさんいるので、その子どもに対する支援を考えていきたい。妊婦や子どもが産まれた後の母親の支援を検討する上でデータをとらなければならないと考えている。ヤングケアラー、親子関係構築支援などは、研究機関とともに研究を進めている。離婚の問題に対する子どもの支援、DV支援、単身女性支援、家庭内暴力防止など、様々なことを研究・検討し、効果的な情報提供を模索していきたい。

(2) 次期地域福祉計画策定について
事務局より資料説明が行われた。

(3) 重層的支援体制整備移行準備事業の状況について

- ア 大田区における重層的支援体制整備移行準備事業の状況
- イ モデル地区（大森地区）における重層的支援会議の実施状況
- ウ 大田区ひきこもり支援室SAPOTA（サポタ）の開設について

事務局より資料説明が行われた。

○委員

SAPOTAはサポートと大田区をつなげた名称にした。開所は月曜日から土曜日、10時から18時。大森駅から徒歩3分程度の場所にある。体制は常勤が3名、非常勤の心理士等。JOBOTAでは7年間で500件程度のひきこもりに関する相談を受けた。本人が外に出られないなど、コロナ禍で支援が途絶えたケースもあった。はじめは電話やメールで相談、可能な場合は来所してもらっている。アウトリーチは抵抗があるかもしれないため、当事者の意向を把握してから対応している。SAPOTAは義務教育終了後の方が対象。JOBOTAと異なり、生活保護受給者も対象となっている。相談状況は2か月で50件強。相談者は、本人は多くなく、親御さんからほとんど。年齢層は20代、40代、30代が多く、10代も数名いた。ひきこもり状態の方にどのようにSAPOTAを知っていただくか、今後の周知活動が重要となってくる。ひきこもり期間を調査すると、10年以上が3割強で最も多い。当事者とそのご家族が高齢化している。家族会との連携も重要で、もふもふの扉に来る方にも周知を図っていきたい。今後は、出張相談会なども展開していきたい。ぜひ、SAPOTAの存在を周知していただきたい。重層的支援体制の一つに位置付けられているため、他機関と連携して活動していきたい。すぐに就労支援ではなく、まずは当事者が外との接点を持つことが重要。

(4) 意見交換

○委員

大田区の地域福祉力をまとめていく力強さを感じる。ひきこもりの方が意図的に社会とどのようにかかわるかが重要。成年後見の利用促進については、今の制度では限界があるため、大田区事例を吟味しながら日常生活の運用も含め提案するような会議にしていけると良いと考える。

○委員

様々なことが絡み合っ問題が起きていることがわかった。引き続き適切な対応をしていきたい。

○委員

大田区の施設は素晴らしい。今後は、区民に対して取組等をどのように周知・理解を進めていくのが課題と考える。もう一つはアメリカでサードプレイス議論が進んでいる。大田区でも第三の場所づくりを視点の一つとして検討していただきたい。

○委員

会に所属する方の高齢化が進んでいる。様々な相談の入口が増えていて、多様な相談のあり方がある。相談を受けて、どのように形にしていくのか、区民にどのように仕組みを周知していくのか、ということを検討していくことが重要と考える。来年は様々な計画策定のタイミングであり、協力させていただきたい。

○委員

世帯の中でも世帯員は別々の課題を有している。家族全体の支援と受け止めていただき、地

域で生活できるような支援を強く期待する。SAPOTA に電話できる人は良いが、そもそも電話もできない人への支援が課題と捉えている。アウトリーチによる支援を強化し、孤立防止を推進していただきたい。

○委員

重層的支援体制整備事業の背景について、私たちの活動でも同様の課題を抱えている。50代で脳出血により倒れて介護を受けている方について、父親が仕事をして生活を支えている。父親が倒れた場合の支援が必要となっている。このような事例を踏まえると、大田区が提示した支援のあり方は継続性もあって、今後も伴走型の支援に力を入れていただきたい。

○委員

ほとんど民生委員に関わる内容であった。これからも深く勉強していくこととする。

○委員

子ども食堂は、一つ一つは小さな支援の枠組みだが、サードプレイスの一つになっていると捉えている。子どもからの相談を拾い上げる場と考えているので、包括的に解決できるヒントを受け取れるように参加していきたい。

○委員

建築士の仕事をしている。地域の自治会活動、民生委員、子どものゆりかご支援などの経験を通じて福祉の必要性を強く感じている。本日はヤングケアラーの問題も含まれており、議論の内容に満足だった。大田区の重層的支援体制整備事業に期待している。

○委員

困窮者支援の活動の中で、複数の困りごとを持った方に対する支援のあり方に課題を感じている。

困りごとが複数重なることで、既存の支援メニューでは対応できないことがある。

また、何か困りごとが生じた時に、適切な支援にアクセスできるかどうかにもハードルがある。

大田区のウェブサイトは組織ごとになっているので、困りごとの内容で探すことができるようにするなど、工夫ができるのではないかな。

例えばオーストラリアのウェブサイトでは、困りごとの内容から支援メニューを探すことができる (<https://askizzy.org.au/>)。

このように、DXの観点も重要であり、参考にしていけると良いと考えている。

○委員

高齢者が困るのはいざという時にかかる医者である。オランダにあるような訪問診療の医者の制度は大田区にあるのか。アナウンスすると24時間体制の医者がすぐに駆け付けてくれるような仕組みはいかがかな。

○健康医療政策課長

現在、コロナ禍で一時よりは在宅往診をかなり進めてもらえるようになっている。一方、24時間体制を築くことは難しいかもしれないが、必要な時に駆けつけることができるように医師会と連携していきたいと考えている。

○委員

大森地域での事例を聞いて、私も意思決定支援が重要と考えている。もう少し具体的にイメージしたいので補足いただけないかな。

○大森地域福祉課長

ご本人の尊厳ある生活を大切にすることが最も必要なことであり、適切な支援に繋げていくためにも重層的支援会議の構成メンバーを慎重に検討していくことも重要なことである。

○委員

来年度にかけて福祉部所管の次期主要計画を策定すること、また今後の取り組んでいくことを聞くことができた。今は様々なことの転換期である。この転換期に合うような計画を策定していただきたいと考えている。ただし、この場合、他にモデルはないと思う。むしろ大田区でモデルをつくっていくという志をもってやらなければならないと感じた。本日の会議は有意義なものだった。

○高齢福祉課長

見守りキーホルダーは一人で外出する際に持っていただくもの。通報先は警察、消防がほとんど。内容を分類するのは難しいが、帰り道がわからない、怪我をしたといった連絡が多い。

買い物時に財布がないということをお店の方が通報したケースもあった。

7 閉会

以上